

営農だより

うす播きで
健苗育成!!



3・4月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～

(営農ブックP14.15参照)

●うす播き(乾粃120g/箱)の励行

育苗期間(育苗計画)

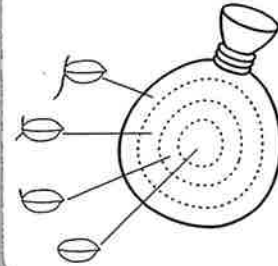
老化苗の移植を防ぐため、田植え時期に合わせた播種計画を立てましょう。(詳細は裏面を参照)

土・苗箱・種粃の準備

育苗箱・床土・種粃の目安(10a当たり)

	60株植	50株植
箱数	18箱	15箱
床土	90kg	75kg
種粃	2.2kg	1.8kg

袋詰めのポイント



袋内の外側と内側で
幼芽・幼根の伸び、
薬剤効果にバラツキ
がでます。
種粃は袋に半分程度
にして、催芽そろいを
良くしましょう。

種子消毒

【薬剤吹き付け種子を使用する場合】

- 浸種から開始(最初の3日間は種子消毒期間のため水を交換しない。)
- 効果が落ちる為、消毒液温は10℃以下にしない。

※未消毒種子を使用する場合は営農ブックP33参照

浸種

- 水温は10～15℃に保つ。
- 浸種期間の目安は積算温度(水温×浸種日数)で100℃以上、コシヒカリ等の休眠の深い品種は120℃を確保する。
- 浸種水量は種粃の2倍以上とする。水は1～2日毎に交換、後期は呼吸量が盛んになるので、毎日交換する。

種粃発芽向上のポイント

1. 浸種水量は種子粃の2倍(粃1kg:水2ℓ)
2. 浸種当初の水温は10℃～15℃を必ず保つ
3. 可能な限り、こまめに水の入れ替え

浸種期間の目安 (積算温度100℃以上)

品種名	水温 10℃	15℃
コシヒカリ ゆめみづほ	12日間	8日間
ひやくまん穀 カグラモチ	10日間	7日間

催芽

●催芽温度が高いと、もみ枯細菌病・褐条病の発生を助長します。

催芽温度	最適催芽程度	目安
30℃	1mm(ハトむね程度)	9割以上(発芽をそろえる)

※ひやくまん穀は他品種と比べ芽が出るのが早いのでご注意ください!!



播種

1箱あたりの目安		注意事項
乾粃重	120g	●厚播は障害苗が発生しやすく、苗質を弱くします。 ●コシヒカリの播種は4月に行いましょう。 ●播種同時散布可能箱剤については裏面を参照。
催芽粃重	150g	

※ひやくまん穀は、コシヒカリの播種量より2割多くする。

かん水

- かん水量は1箱当たり0.8～1.2ℓで、箱の底まで床土が湿った状態が目安となります。
- カビ予防をかねて、ダコレート水和剤の500倍液を1箱当たり500ml灌注する

厳守

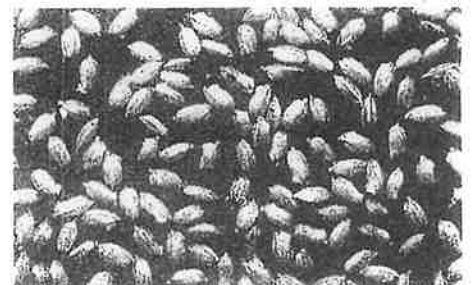
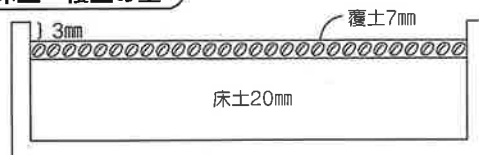
ダコレート水和剤の使用は、播種時から緑化期(但し播種後14日まで)で2回以内です。

※播種時1回、ハウス内(緑化期まで)1回の使用としてください。

覆土

●覆土の厚さは7mm程度とし、1cm以上の厚さには絶対にしないこと。

床土・覆土の量



催芽粃150g(乾粃120g)播き【原寸大】

出芽

温度ムラに注意し、芽の揃いを良くしよう。
出芽器内の温度は昼夜とも30℃にし、2～3日を目安とする。
(出芽器内の温度が高いと、もみ枯細菌病・褐条病の発生を助長します。)
芽の長さが8～10mm(ゆめみづほ10mm)が最適です。

裏面につづく

田植え時期に合わせて浸種を開始しよう！

播種は田植え時期から逆算して計画的に行いましょう。**育苗期間は1ヶ月以内です！**播種が早いと育苗期間が長くなり、老化苗になりやすく、田植え後の活着が悪くなります。また、ハウス管理にも負担が掛かります。

〈田植え時期と播種時期の目安〉

項目	田植え時期	5/1	5/5	5/10	5/15
浸種(10℃×12日間)		3/23~4/4	3/30~4/11	4/6~4/18	4/11~4/23
催芽(2日)		4/4~4/6	4/11~4/13	4/18~4/20	4/23~4/25
播種		4/6	4/13	4/20	4/25
出芽(2.5日)		4/6~4/9	4/13~4/16	4/20~4/23	4/25~4/28
ハウス管理		4/9~5/1	4/16~5/5	4/23~5/10	4/28~5/15
ハウス管理期間		22日間	19日間	17日間	17日間
播種~田植え		25日間	22日間	20日間	20日間

床土混和・播種時散布可能な育苗箱施薬剤

エバーゴルフフォルテ箱粒剤 (ゆめみづほ・ひやくまん穀に使用)

使用期間: 播種前・播種時(覆土前)~移植当日
 適用病害虫: いもち病・疑似紋枯病・白葉枯病・紋枯病
 イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ
 ウンカ類・ツマグロヨコバイ
 使用量: 育苗箱1箱当たり50g
 特徴: 移植当日まで使用可
 紋枯病に対して効果があり、ゆめみづほの出穂前防除を省略できる
 備考: ハウスで後作として作物を栽培する場合は使用しない

ファーストオリゼリディア粒剤 (コシヒカリに使用)

使用期間: 播種前・播種時(覆土前)
 適用病害虫: いもち病・イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ
 ウンカ類・ツマグロヨコバイ
 使用量: 育苗箱1箱当たり50g
 特徴: 播種と同時にいもち病や初期害虫、ウンカ類、ツマグロヨコバイなどの防除が可能
 備考: 播種時(覆土前)までしか使用できない
 ハウスで後作として作物を栽培する場合は使用しない
 密苗の場合は、密苗対応薬剤を使用して下さい

~10の推進技術・5つの1か月対策の徹底~

(営農ブックP14.15参照)

★
★
目指せ加賀産高品質米!!

推進技術	目 標
1 播種量 (うす播きの励行)	●1箱当たり120g(太植による過剰生育の抑制)
2 育苗日数 (健苗の育成)	●播種から田植えまで 1か月以内 (初期生育の確保)
3 植付け本数 (細植えの励行)	●1株当たり3~4本(適正茎数の確保)
4 栽植密度 (優良茎の確保)	●3.3㎡当たり60株以上(適正茎数の確保)
5 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上)	●高温登熟・増収に対応した基肥一発施肥への切り替え ●生育状況に応じた追加穂肥の実施
6 田植え時期 (早植えの防止)	●5月 田植えの励行(過剰生育の防止)
7 中干し・溝切り (遅発げつの抑制)	●田植え 1か月後 からの実施(過剰生育の防止) ●中干し期間 1か月間 (コシヒカリ)の遵守
8 除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	●7月上旬までの追加除草 ●水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9 水管理 (飽水管理の徹底)	●中干し後から出穂までの約 1か月間 (コシヒカリ)の飽水管理 ●出穂から刈取り直前までの 1か月以上 の飽水管理
10 刈取り時期 (適期刈取りの励行)	●籾の黄化程度に応じた刈取り

